令和３年度　学校だより　学校教育目標「せいいっぱい　きたえ　のびよう　東っ子」

東白川小だより

令和３年 11 月 30 日(火)　№9

大切な力をつけた　「国語辞典はや引き大会」を通して

昨年度から始めた「国語辞典はや引き大会」。今年度は学期に１回というペースで進み、11 月 16 日に２学期の大会が終わりました。

実は大会に関して、大きな変化がありました。というのは、前回まではわたしが企画、準備、運営をしてきましたが、今回から５、６年生で実行委員会をつくり、引き継いでくれたのです。行事や委員会の活動と重なり、大変な部分もありましたが、最後まで責任をもち、やり切ることができました。様子を見ていて、たくましくなったなあと感じたのは、最初から最後までわたしに「次は何をしたらいいですか」「どうやったらいいですか」といった質問が全くなかったことです。あったのは「～なので、〇〇します」という報告だけでした。自分たちで何をしなければいけないのかを考え、判断し、行動に移していきました。大会がいざ始まってみると、その場で判断しなければいけないことも出てきました。そこでも、同じように、自分たちで考え、判断していました。これから、社会の中で生きていくためにも大切な力でしょう。３学期に行われる大会に向け、実行委員さんたちはさっそく動き始めています。参加者が増えていることに加え、この実行委員さんたちの動き、成長ぶりからも目が離せません。

大仏を前にして学んだこと　「６年生　修学旅行」を通して

11 月４日（木）、５日（金）の二日間、６年生は奈良、京都へ修学旅行に出かけました。コロナ感染症の第５派が収束に向かっていたことや昨年度の旅行で対応の仕方を経験したことなどから、昨年より余裕を持ち、体制を整えて出発することができました。

さて、そんな旅行の中で、６ 年生の子供たちが大切なことを学んだと感じた場面がありました。それは、１日目の活動を終え、宿舎で反省会をしているときです。

「大仏の大きさは資料集で知っていたけど、やっぱりこの目で見てみないと大きさは分からない」

何人もの子がそう発表しました。今は、ネットで調べれば大抵のことは分かります。分かった気になってしまいます。でも、そうではないんだ。自分の目で実物を見たり、触ったりすることが「本当に分かる」ことにつながるんだ。このことを６年生の子供たちは旅行を通して学ぶことができました。学びのすべてを実物で実感していくことは難しいので、ネット環境はありがたいのですが、だからこそ、こういった本物に触れる機会を大切にしなければいけないと改めて感じた修学旅行でした。